

平成20年度 文学講座・特別講演会を開催しました。

講師 柳田邦男氏

テーマ 絵本は人生の心の糧 ～いま、大人こそ絵本を～



平成21年2月4日(水)市原市勤労会館にて文学講座特別講演会を開催しました。

柳田邦男先生<評論家、ノンフィクション作家>をお招きして、『絵本は人生の心の糧 ～いま、大人こそ絵本を～』をテーマに講演していただきました。

絵本は子どもが読むものと思われがちですが、子どもだけでなく大人が読んで人生について教えてくれるものであること、また、物があふれる現代において心の豊かさがどれほど大切なことかについてあらためて気づかされる内容でした。

先生が翻訳に携わった絵本をスライドで紹介したり、読者との数々のエピソードをお話された時には、絵本の持つ力の大きさを実感して涙する方もおられたようです。

講演の予定時間を大幅に超えるご熱弁となりましたが、258名の受講者の皆さまも最後まで熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

講演終了後もサイン会では、先生のお人柄が滲み出るような心のこもったメッセージをお一人お一人に丁寧に書き添えられ、講演会の余韻とともに皆さん大変満足された様子でした。

皆さんも絵本をもう一度手にとって、深い感動を味わってみてはいかがでしょうか。人生の経験を重ねた後に読む絵本は、幼いころとは違う新たな気持ちで向き合うことができると思います。

プロフィール

ノンフィクション作家・評論家

1936年(昭和11年)栃木県鹿沼市生まれ。

NHK記者として14年間報道の仕事に携わった後、フリーの作家活動に入る。現代人の「いのちの危機」をテーマに、戦争、災害、事故、公害、病気などのノンフィクション作品や評論を書き続けている。最近では、終末期医療、医療事故、脳死問題、心の危機、言葉の危機、少年事件、絵本の重要性などについて、積極的に執筆と講演を行っている。

主な受賞

NHK記者時代の1972年、『マッハの恐怖』で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1995年『犠牲・わが息子脳死の11日』とノンフィクション・ジャンル確立への貢献に対し第43回菊池寛賞、2005年翻訳絵本『エリカ奇跡のいのち』で日本絵本賞翻訳絵本賞など受賞多数。

上記作品以外の主な作品

『言葉の力、生きる力』『壊れる日本人』『人の痛みを感じる国家』『「気づき」の力』(以上新潮社)『大人が絵本に涙する時』『もう一度読みたかった本』(以上平凡社)『砂漠でみつけた一冊の絵本』(岩波書店)

上記以外の主な翻訳絵本

『だいじょうぶだよ、ぞうさん』(文溪堂)『ヤクーバとライオンⅠ勇気』『ヤクーバとライオンⅡ信頼』(以上講談社)